

「朗読決勝課題」

のびやかに広がる美しい声、しみじみと沁<sup>し</sup>みてくる情緒、どこと云って文句のつけようはないのですが、でも、なにかものたりません。

「景色が見えてるかな」

「見えてる……と思うよ」

彼はイメージした絵を説明してくれました。イメージを絵にすることはできていたのです。

「足に何を履いているの？」

「え？」

私のとっさの質問に、彼は答えられませんでした。